小松市未来型図書館等複合施設の整備に向けた サウンディング型市場調査の結果概要について

小松市では、「市民と共に創る未来型図書館」を目指し、未来型図書館等複合施設の整備に向けた具体的な立地場所の選定をはじめ、経年による老朽化や機能・用途のあり方が課題とされてきた小松市公会堂，小松市立博物館，小松市立図書館を中心とした公共施設の集約・再編や機能の見直し，未来型図書館のビジョン・コンセプトを実現する機能，官民連携事業による事業の可能性等，様々な事業課題について，市民との共創のもとに調査・検討を進めています。

本調査は，幅広い民間事業者の皆様との対話を通じ，未来型図書館の整備・運営手法，芦城公園の一体的な活用方策，施設整備に伴う駐車場のあり方の可能性等について，広くご意見やご提案をお聞きし，今年度の事業方針のとりまとめに反映することを目的とし，民間事業者と個別に対話を行ったもので，その結果概要を公表します。

1. 調査の経過

内容		日程
1	実施要領の公表	令和5年10月13日(金)
2	提案資料(様式3)の受付期間	令和5年10月13日(金)～11月8日(水)
3	対話の実施	令和5年11月15日(水)

2. 参加者

参加申込のあった19社と個別対話を実施しました。(対面またはWeb会議で実施)

区分	参加者数
設計・企画	5事業者
建設	9事業者
運営・管理	2事業者
その他	3事業者

※参加事業者の名称は非公表とします。

3. 対話テーマ

対話は，以下の4つのテーマ（一部の項目でも可）で実施しました。

- 未来型図書館（複合施設）の整備・運営に関する提案
- 芦城公園の一体的な活用方策に関する提案
- 施設整備に伴う駐車場のあり方に関する提案
- 回遊性の創出等に関する提案

4. 主な意見

(1) テーマ1「未来型図書館（複合施設）の整備・運営に関する提案」

① 導入により相乗効果が期待される公共・民間機能

文教機能，市民活動・体験・交流機能，子育て支援機能，ビジネス支援機能，飲食・物販機能に分類される多数の機能が挙げられました。

項目	概要
文教機能	<ul style="list-style-type: none">○知の集積である図書館と博物館機能の集約は，文化活動拠点として相乗効果が期待される。○日常的に来館者数が多い図書館と博物館が融合することで，市民が地域の歴史・文化に触れ，まちへの愛着醸成が期待できる。
市民活動・体験・交流機能	<ul style="list-style-type: none">○工房，スタジオ，多目的室，テーマ毎のラボなどの導入により，得た情報や知識から活動への展開を促す。○博物館は集約型の展示よりも，他の機能と連携することで，各空間の稼働率の向上にもつながる。常設型の展示は，もう一度訪れたい場所とするため，異なる仕掛けを行っていく必要がある。○市民ギャラリー，コミュニティスペース，会議室などの一体的整備により，市民活動スペースが確保され市民活動・交流が促進される。また，周遊活動の拠点となる。
子育て支援機能	<ul style="list-style-type: none">○子育て世代のための，こども図書館，託児施設，遊び場などが一体的に整備されるとよい。○子どもの頃から図書館に通う習慣を身に付ける仕組みを構築することで，将来にわたって親しまれるエリアになる。
ビジネス支援機能	<ul style="list-style-type: none">○企業が交流できるコミュニティスペースやコワーキングスペースなどの導入により，企業連携を促す。
飲食・物販機能	<ul style="list-style-type: none">○人々のくつろぎ・滞在・交流のための要素として，カフェや飲食スペースなどの飲食機能の導入が考えられる。また，地域の商店等の出店や，新しいビジネスを支援するチャレンジショップなどの在り方も考えられる。○物販機能として，書籍，ミュージアムショップなどの導入が想定される。

② 官民連携による事業手法（整備・運営）

未来型図書館の整備運営手法については、整備・運営を一体とした事業方式であるPFI（BTO方式）やDBO方式が望ましいとの意見が多くあったほか、従来手法やDB方式、定期借地による民間事業も考えられるとの意見が挙げられました。

項目	概要
整備運営を一体とした方式が望ましい主な理由	<ul style="list-style-type: none">○設計・建設・維持管理・運営の一括発注により、施工や管理運営の効率化、技術・品質の向上、コスト削減が期待できる。○未来型図書館には様々な機能・サービスが付加されるため、設計段階から運営ノウハウのある民間事業者の参入が望ましい。○複合用途で行政の所管部署も複数に跨る可能性が高く、民間事業者が事業期間に亘って横断的に対応できる。
事業類型（事業収支等）	<ul style="list-style-type: none">○施設の性格上、大きな収入は見込めないことが予測されるため、サービス購入型を基本とすることが望ましい。○民間主導のコンセッション方式、独立採算手法は困難である。○自主事業を組み込んだ事業手法であれば、一部収益の充当可能性はある。
業務範囲（運営など）	<ul style="list-style-type: none">○運營業務のうち、博物館機能の学芸業務（調査研究、収集保存など）は、市と民間で業務分担の検討が必要である。

③ 市民参画を生む運営スタイルや未来技術を活用した新たなサービス

未来型図書館の運営面における市民参画の仕組みとして、連携可能性のある団体や、連携を促す仕掛け、事業の進め方について多様なアイデアが挙げられました。

ア) 市民参画を生む運営スタイル

項目	概要
運営団体	○民間事業者とNPO法人、地域コミュニティ組織、ボランティア、市民団体などの連携による運営スタイルが考えられる。
仕掛け(施設整備・生活活動等)	○市民活動スペースの導入、地元企業紹介、仕事体験や講座、生涯学習、地域文化の掘り起こしなどによって、地域コミュニティの発展に寄与する。 ○SNS等を活用した広報活動も重要である。
事業の進め方	○施設整備段階から対話の場や建設現場見学会を実施するなど、市民と計画を進める手法は効果的である。 ○未来型図書館の愛称募集や開館後も「図書館のあるまち」を議論する取り組みなども有効である。

イ) 未来技術を活用した新たなサービス

項目	概要
図書機能	○書籍や文化資料のデジタルアーカイブ化、AI顔認証システムの導入、オープンライブラリーの導入、メタバース技術の活用等により、利用者の利便性向上や管理の効率化等が期待される。
その他新技术を活用したサービス	○アバターロボットによる遠隔解説やVRを活用したプログラムなどのサービス提供が可能である。 ○AIやライブカメラを活用した遠隔管理や消費者行動分析など、管理側での活用も考えられる。 ○自動運転バスとの結節やオンデマンド交通サービスなど交通分野との連携による回遊性向上策も考えられる。 ○省エネ設備導入による環境配慮型複合施設のPRが可能。

(2) テーマ2「芦城公園の一体的な活用方策に関する提案」

① 芦城公園の魅力と利便性を向上する官民連携手法の活用

未来型図書館は、芦城公園と一体的に整備・運営することが有効であり、公園の整備手法としてPark-PFI手法の活用が想定されるとの意見や、その場合の留意点、公募対象公園施設（民間収益施設）として飲食機能の可能性などに関しての意見が多く挙げられました。

項目	概要
官民連携手法の活用 (Park-PFI など)	<ul style="list-style-type: none">○Park-PFI手法の活用も想定されるが、公募前に民間事業者のヒアリング等を通じて、事業性を踏まえた条件設定（土地賃貸料等）が必要である。○公園の来場者数，集客，収益性等を踏まえてPark-PFI手法の活用を検討する必要がある。○未来型図書館整備をPFI事業等で実施する場合，Park-PFI事業と一体事業とするか別事業とするかは検討が必要である。○Park-PFI等を活用して，飲食店などが数店舗集積させた魅力スポットとなるとよい。○地元企業や市民が出店しやすい条件設定やチャレンジショップによる独自性・地域性の高い店舗誘致の仕組みが必要である。
飲食機能の設置	<ul style="list-style-type: none">○芦城公園と一体的に施設を整備し，屋外でも図書館のサービスを提供する。○公園内スペースを活用したアウトドアカフェ，オープンスペースを活用したキッチンカーやマルシェイベントなどの企画が可能である。○飲食施設の配置は公園利用者もアクセスしやすい位置が望ましい。○未来型図書館との複合や現図書館の跡地活用による設置が考えられる。

(3) テーマ3 「施設整備に伴う駐車場のあり方に関する提案」

① 来訪者の利便性確保のための駐車場のあり方（事業手法・採算性）

未来型図書館の整備に伴い必要となる駐車場について、立体駐車場の整備による利便性向上や、整備運営手法への意見のほか、整備規模や料金設定に対する課題・検討事項についても意見が挙げられました。

項目	概要
駐車場の整備	<ul style="list-style-type: none">○駐車場不足の可能性、敷地制限、平面確保が難しい場合などは、立体駐車場の整備を視野に入れる必要がある。○立体駐車場を整備する場合、冬季や雨天時利用、家族利用などの利便性の向上が期待できる。○市役所利用と兼用する場合、立体駐車場と市役所と図書館を繋ぐアプローチが整備できるとよい。○駐車場にコワーキングやカフェ、学習塾、スクールなどの民間収益施設導入をしている事例もある。
立体駐車場の事業手法	<ul style="list-style-type: none">○民間整備で利用料金を徴収しない場合は、整備費を割賦支払か建物をリース契約か、利用料を市から徴収等の手法などが考えられる。○市より土地を借り、事業者が整備し、市利用分の賃貸料及び一般利用者から料金徴収を行う手法が考えられる。
課題・検討事項	<ul style="list-style-type: none">○現状の過不足、複合施設整備後の必要規模（民間施設用含む）、子供や高齢者などのアプローチ、平日・休日・イベント有無を含めた駐車場需要、採算性の検討が必要である。
駐車場の料金 (有料・無料等)	<ul style="list-style-type: none">○周辺公共施設の駐車場が無料であるため、民間事業者による独立採算での維持管理・運営は難しい。○利用者への無料サービス（利用時間割）の導入が望ましい。

(4) テーマ4「回遊性の創出等に関する提案」

① 周辺文化施設との連携方策

芦城公園周辺の文化施設について、連携先や方策についてのアイデアが挙げられました。

項目	概要
連携先	○芦城公園周辺文化施設の連携先として、主に美術館、博物館、絵本館、中央緑地などが想定される。
連携方策	○周辺文化施設を含めた一帯のネーミングや共通のロゴ・サイン・モニュメント、イベント同時開催、ツアー・スタンプラリー、共通券発行、施設相互の情報発信や連携事業など、地域ブランディングとしての展開が有効である。 ○文化施設が集まる敷地南側への複合施設整備が有効である。

② 都市機能誘導区域（小松駅・小松運動公園）の回遊性の創出の方策

半径1km程度に位置する小松駅周辺、芦城公園周辺、小松運動公園周辺を含む地域を都市機能誘導区域としており、この区域の回遊性を向上させる方策について、ハード面、ソフト面から多様なアイデアが挙げられました。

項目	概要
ハードの方策 (交通網の整備など)	○レンタサイクル、モビリティステーションの導入・ハブの整備、公共バスの整備（ルート・増便）、自動運転バスのルート拡充・整備が有効である。 ○小松駅、小松運動公園、芦城公園の3つのエリアの中間地帯に位置する商店街の活性化が重要である。 ○小松駅周辺での図書の返却機能なども有効である。
ソフトの方策	○ウォーキング、ランニングコース、テーマ別の周遊ルートなどを設定し、発着地点とするとよい。 ○モビリティと観光アプリケーションで相乗効果を図る。 ○小松駅・小松運動公園での未来型図書館事業のPRイベント・ワークショップ等を出張開催、3エリアの共同イベントなどが有効である。

5. その他

今後も、随時、事業者との対話を通じて、機能や整備・運営手法、芦城公園の一体的な活用等について、実現に向けた検討を進めていきます。